

国立国語研究所学術情報リポジトリ

大規模方言分布データの構築に向けて：
東北大学方言研究センターの全国分布調査

| | |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: Japanese 出版者: 公開日: 2020-03-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小林, 隆 メールアドレス: 所属: |
| URL | https://doi.org/10.15084/00002697 |

大規模方言分布データの構築に向けて

—東北大学方言研究センターの全国分布調査—

小林 隆
(東北大学)

1. 報告の趣旨

熊谷氏が代表を務めるプロジェクト「大規模方言データの多角的分析」は、特に『日本言語地図』を構成する大量のデータを整備し、さまざまな角度から研究に役立てようとするものである。この「大規模方言データ」という点では、私たちの研究室（東北大学方言研究センター）が長期にわたって取り組んでいる調査も該当するので、ここで紹介する。特に、どのようなねらいで、どんな項目を調査しているかを紹介したい。

ここで報告する調査の目的は、大きく2つある。

(1) 消えゆく日本語方言の記録

方言の記録には記述調査と並んで分布調査が不可欠である。方言の衰退が著しい今日、これまで取り上げられなかった項目について全国的な視野に立つ調査を実施し、分布データを蓄積する必要がある。

(2) 新しい分野の開拓

従来の調査内容は音韻や語彙、文法が中心であった。これまであまり調査が行われていない表現法や言語行動に関わる分野を新たに開拓し、知られざる地域差の発見につなげる必要がある。

2. 消えゆく日本語方言の記録

2. 1 語彙項目を中心とした調査

まず、2002年までに行った語彙項目を中心とする調査について述べる。

語彙に関する全国的な分布調査ということになると、日本ではほとんど『日本言語地図』しかないのが実情であり、この地図の跡を襲うような日本の東西をカバーした分布調査が待たれていた。そこで、第二の『日本言語地図』の作成をめざすべく、2002年までに次のような全国調査を実施した。

1986年調査：『日本言語地図』との関連意味項目を中心とした調査

1991年調査：『日本言語地図』との関連意味項目を中心とした調査

2000年～2002年調査：通称「危機言語調査」と呼ばれているもので複数の視点から項目を設定した調査（調査項目の設計にあたっては、篠崎晃一氏の協力を得た）。

2. 2 調査項目の方針

この調査では計8冊の調査票を使って425項目を調査した。基本的に、従来の調査で対象にならなかった項目であり、全国的な分布の解明が期待されるものである。主として次の3つの観点から項目を選定した。

- ① 『日本言語地図』の項目を直接的に補完する項目
- ② 方言地理学的調査が遅れている分野の項目
- ③ 先行研究で成果のあげられている項目

以下、順に解説する。

① 『日本言語地図』の項目を直接的に補完する項目

『日本言語地図』には身体部位に関する項目が収められている。しかし、それは身体部位を網羅的にカバーしたものにはなっていない。例えば、足部では「くるぶし」「かかと」の2項目しかなく、「足」「もも」「ひざ」「ひざがしら」「すね」「ふくらはぎ」「足首」「足の甲」「足の裏」「土踏まず」といった項目は取り上げられていない。そこで、これらの項目を補うことを考えた。方言地理学では分布の興味を優先するあまり、調査項目間の関連性や体系性への配慮が弱いと言われる。例えば、「くるぶし」を表す語形は「ひざがしら」を表す語形と歴史的な交渉をもつが、「ひざがしら」の地図がないため、その点を分布によって考察することが難しかった。記述調査との有機的な連携をはかるためにも、同一意味分野の項目を充実させておくことは必要である。

② 方言地理学的調査が遅れている分野の項目

上で述べたのは、すでに『日本言語地図』にいくつかの項目が取り上げられている分野への追加という観点である。一方、分野自体『日本言語地図』では対象にされていないという項目もある。例えば、意味分野では、職業、性格、料理、習慣・行事、地形、あいさつ言葉など、品詞では副詞（オノマトペ）や感動詞などが該当する。これらは、『日本言語地図』だけの問題でなく、全般に方言地理学的調査が遅れているものである。もちろん、これらが分布調査の対象とされにくかったことには理由がある。例えば、人の性格を表す言葉や副詞・感動詞の類は、その意味を正確に把握しにくく、方言間の比較も難しいことがひとつの障害になっていた。しかし、そのような問題を抱えながらも、ここでは分布の概観をとらえることの意義を優先し、一定の例文により意味を細かく指定するといった工夫を行うことで、調査項目に採用することにした。

③ 先行研究で成果のあげられている項目

これは上の2つの観点と矛盾するように見えるが、正確には、「先行研究では成果があげられてきたものの全国的な分布調査がなされておらず、その結果との対比が待たれている項目」と言うべきものである。この「先行研究」の中には、地方ごとの分布研究はもちろんのこと、文献学的な語史研究なども含めて考える。どのような項目が先行研究で取り上げられてきたのかは、佐藤喜代治編（1983）、柳田征司（1991）、小林隆・白沢宏枝（2002）などの目録類を利用して調査した。

例えば、「ありじごく」「あめんぼ」「みずすまし」「彼岸花」「末っ子」「お転婆」などといった項目は地域別の方言地図ではよく対象とされているが、全国調査がまだ行われていない。また、「新しい」「もったいない」といった項目は文献による語史研究では有名であるものの、方言分布からの検討がなされていなかったものである。これらの項目を調査することにより、従来の研究を深めることが可能である。

このほか、語形を固定しその意味のパラエティをみる項目を多めに取り入れたり、通信法による調査の可能性を探るために文法項目を一部試みたりした。以上の観点から選ばれ

る項目はかなりの数になるため、さらに、方言量の豊富なものや分布類型上興味深いものを優先するといった措置をとった。

《調査項目一覧》

語彙に関する調査項目を、大まかな意味分類、品詞分類をほどこして以下に掲げる。項目の配列は『日本言語地図』を参考にしてある。

○感覚・感情・状態 —— けむたい、にがい、しぶい、えがらっぽい、だるい、調子が悪い、痛い、痛む、賢い、ずる賢い、ずるい、生意気だ、かわいい、かわいそうだ、はずかしい、さびしい、退屈だ、苦しい、うらやましい、もったいない、みつともない、新しい、粗末だ、不潔だ、汚い(幼児語)、美しい(幼児語)、忙しい、面倒くさい、だらしない、いやだ、とんでもない、意外だ、たやすい、やかましい、「トゼンダ」の語形と意味、「メンコイ」の語形と意味、「ムゴイ・ムゾイ」の語形と意味、「エズイ」の語形と意味、「ショーシー」の語形と意味、「オゾイ」の意味、「ガオル」の語形と意味、最下位、逆さま、裏返し、反対、めちやくちゃ(以上、46項目)

○行為・存在 —— 歩く、走る、這う、かがむ、しゃがむ、あおむく、うつむく、あおむけ、うつぶせ、うつぶす、かぶる、抱く、持つ、搔く、産む、育てる、死ぬ、話す、さけぶ、泣く、食べる、疲れる、怒る、あわてる、騒ぐ、甘える、叱る、だます、からかう、いじめる、仲間に入れる、嘗める、破る、壊す、転ぶ、失敗する、困る、弁償する、ふざける、すねる、盗む、片付ける、へらざ口をたたく、おしゃべりをする、いる[あそこに～]、いる[休んでいる子供が～]、いる[姉には子供が～]、いる[どこに～]、いる[船が～]、いる[金魚が～]、ある[出目金が～]、ある[大根が～]、「イル」の語形と意味、「イテル」を〈すわっている〉の意で使うか、「ネマル」の意味、いたずら、でたらめ、冗談、悪口(以上、59項目)

○身体 —— 頭、頭[～を横に振る]、頭[～をなでる]、頭[～を洗う]、頭[～がいい]、頭[～が痛い]、頭頂、頭蓋骨、脳みそ、髪の毛、ひよめき、顔[顔面]、顔[人相]、顔[表情]、顔[器量]、驚いた顔、ひたい、眉間、目玉、ひとみ、まぶた、まつ毛、眉毛、眉[眉墨]、下あご[全体]、下あご[先]、下あご[脇]、下あご[角]、上あご、あご全体、あご[動物]、えら、歯茎、ほお骨、首、首[～を出す]、のど、のどぼとけ、のどひこ、うで[全体]、うで[ひじから手首]、うで[肩からひじ]、ひじ、手首の関節、手の甲、手の平、からだ、背中、内臓、へそ、尻、男性器、睾丸、女性器、肛門、足、もも・ひざ、ひざがしら、すね[全体]、すね[前側]、ふくらはぎ、足の甲、足の裏、土踏まず、けづめ、「アタマ」の語形と意味、「アタマダ」を〈おおげさだ〉〈おおまかだ〉の意で使うか、「カシラ」の語形と意味、「コーベ」の語形と意味、「ナズキ」の語形と意味、「カオ」を〈スタイル〉の意で使うか、「マミ」の意味、「マミエ」の意味、「カマチ・カバチ」の語形と意味、「アゴ」に関する表現、〈牛馬のつむじ〉をツムジ・ツジと言うか(以上、76項目)

○生理・病気・怪我 —— まばたき、めくばせ、声、せき、せきばらい、くしゃみ、しゃっくり、たん、嘔吐、乳、月経、性交、小便、大便、[大便を]する、糞(幼児語)、屁、すかし屁、[屁を]する、居眠り、出産、病気、風邪、喘息、眼病、下痢、痔、中気になる、てんかん、湿疹、できもの、あばた、あかぎれ、そばかす、しみ、こぶ、いぼ、怪我、傷

あと、こむらがえり、〈腫れ物・吹き出物〉を「オモクサ・オモガネ・オモカニ」と言うか、「ナズキヤミ」の語形と意味（以上、42項目）

○人間・職業・性格 —— 父、母、祖母、曾祖母、兄弟、兄、姉、弟、妹、末子、伯母・叔母、主婦、赤ん坊、子供、乳母、親類、本家、分家、大工、木こり、猟師、神主、僧侶、乞食、漁師、いたずらっ子、おてんば、泣き虫、おしゃべり、がんこもの、ばか、うそつき、おくびょうもの、けちん坊、道楽者、なまけもの、すけべえ、おっちょこちょい、乱暴者、欲張り、わがまま、間抜け（以上、42項目）

○生活・習慣・農業 —— 自分の家、いろり、かまど、台所、炊事、井戸、下水、便所、土間、みぞ、墓場、針の穴、衣類、衣類（幼児語）、鳥もち、斧、天秤棒、財産、金持ち、へそくり、おつり、熊手、備中鍬、たきぎ、おにぎり、餅、おはぎ、赤飯、五目飯、雑炊、味噌、鮮魚、おやつ、田植え終了の祝い、収穫祝い、出産祝い、婚礼、葬式、お化け、どんど焼き、返礼の品、労働交換、飢饉、稲掛け、稲むら、開墾地、肥料、焼畑、もみがら、ぬか、麦の実の殻、ふすま、しいな、稲穂のくず、麦穂のくず、〈もみがら〉と〈ぬか〉をまとめて「ヌカ」と言うか、「スクモ・スクボ」の意味、「スクモ」の語形と意味（以上、58項目）

○動物・植物 —— 雄、雌、雄馬、雌馬、馬の子、河童、きつつき、つばめ、みそさざい、こうもり、「コマ」の語形と意味、蟻、蟻地獄、毛虫、さなぎ、蝶、蚕、こおろぎ、きりぎりす、蜂、ごきぶり、あめんぼ、みずすまし、「スガリ」の意味、蚊、ぶゆ、つくつくぼうし、ぼうふら、さざえ、おおばこ、いたどり、すいば、ひがんばな、桑の実、どんぐり、もろこし、麻、こずえ（以上、38項目）

○自然・時間・空間 —— 天気雨、にわか雨、みぞれ、吹雪、入道雲、空、明星、北極星、北斗七星、明け方、夕方 [早い時間]、夕方 [遅い時間]、夜、大晦日、周囲、側、湿地、泉、堰、藪、峰、山の斜面、麓、谷、峠、崖、平地、砂、山頂、十字路（以上、30項目）

○副詞（オノマトペ） —— 非常に、たくさん、少し、全部、突然、すぐに、ゆっくり、いつも、時々、一日中、一晩中、全然、いろいろ、一生懸命、やっと、結局、わざわざ、わざと、必ず、無理やり、もう、かわるがわる、大声で泣く様子、しくしく泣く様子、溺れる様子（以上、25項目）

○感動詞 —— 話しかけの言葉、驚きの言葉、失敗したときの言葉、痛いときの言葉、ののしりの言葉（以上、5項目）

○あいさつ —— 別れのあいさつ、客送りのあいさつ、入店のあいさつ、客迎いのあいさつ（以上、4項目）

2. 3 調査方法

この調査は小林隆（1998）の成果を踏まえ、通信調査法で実施した。具体的には、郵便を使ってインフォーマントとの間で調査票をやりとりした。ただし、直接インフォーマントに調査票を送るのではなく、各市町村の教育委員会に協力を依頼した。すなわち、調査票は教育委員会に送り、教育委員会の判断でインフォーマントとして適当な高年層話者を選び、その人に調査票を渡してもらおうという方法をとった。

調査地点は、全国約 3200 市町村の中から 2000 市町村を選定した（2009 年度の調査で

は市町村の数が 2000 を割り込んだため、公民館を協力機関に追加した)。その際、分布調査一般の方法に倣い、特定地域に集中させるのではなく、日本全土をまんべんなく覆うように対象市町村を配置した。それぞれの市町村の範囲でインフォーマントが選ばれるので、正確にはそのインフォーマントの居住地（生育地）が調査地点という扱いになる。回収率は調査票によって異なるが、大体 6 割から 5 割程度である。

インフォーマントは原則として各市町村一名ずつとした。方言地理学調査の一般に倣い、在外歴の少ない生え抜き高年層男性を指定した。実際には、この条件に合わない人がインフォーマントに選ばれてしまった場合もある。

以下に、調査文の一例を掲げる。

1、頭に生えている毛を何と言いますか。

参考 アカマジ、アマジ、アンモ、オゴシ、カシラ、カシラガミ、カマチ、カミゲ、カミスジ、カミヒゲ、カラジ、カンザシ、ガンタ、クシ、ケバ、コーズカ、センガ、ツブリ、ヒゲ、ビンタ、ビンズラ、メメ

質問は上の例のように基本的に「なぞなぞ式」を採用し、なぞなぞによる説明が難しい場合は「共通語翻訳式」を用いた。また、必要に応じて挿し絵を利用した。さらに、インフォーマントが方言形を思い出す手がかりになるように、各地で使用されている方言形を「参考」として示した。通信調査の場合、なぞなぞ式に参考語形の提示を組み合わせることによって回収率が向上することは、小林（1988）の実験的な調査で検討済みであり、その成果に従った。

調査票に示す参考語形は、次の方法で選んだ。

- a. 全国で広く使用されている方言形を選ぶ。具体的には、『日本方言大辞典』索引編において、太字で示された語形（本編の見出し語形）で、2 つ以上の使用地域情報が上がっているものを選定した。
- b. 中央語史（文献に基づく）の上で使用された語形、いわゆる古語を選ぶ。具体的には、いちいちの語史研究の成果を利用するとともに、2000 年以降の調査では、『古語類語辞典』（芹生公男編、1955、三省堂）に上がっているものを選定した。

前者は全国から方言形を引き出すための一般的な工夫であるが、後者は、文献と方言との対照による語史研究に役立てようとしたものである。

2. 4 資料の整理と分析

これらの調査の概要については、1986 年の調査については小林（2004）に、2000 年から 2002 年にかけての調査については小林・篠崎（2004）に報告した。それらの報告では調査票も公開しているので、詳しくはそちらを見てほしい（東北大学方言研究センターのホームページにも掲載）。

調査結果については、2000 年調査のうち第 1 調査票の分（身体部位、生理・病気・怪我など）を整理し、小林・篠崎（2004）に掲載している。そこに示すデータは、ほとんど加工を行っていない、いわば「生」の状態に近い性格のものである。すなわち、インフォーマントから返送された調査票の回答を、フェイスシート項目を除き、ほぼそのまま掲載

している。このような方式をとったのは、『日本言語地図』の反省を踏まえた『方言文法全国地図』の方式がそうであるように、データ提示のあり方として、分析前の基礎的なデータの公表が重要な意味をもってくると考えたためである。利用者は、データの最初の段階から、それぞれの興味や方針に基づいて、自由に整理や分析を行うことができる。

現在のところ、資料は蓄積されつつあるが、整理・公開が追い付いていない。分析については、まだ体系的にはなされていないが、次のような研究が生み出されている。

【項目別論文一覧】

- 「死ぬ」
澤村美幸（2010）「「死」をめぐる言葉—方言学の視点から—」『東北文化研究室紀要』51
- 「女性器」
中井精一（2008）「女性器の方言にみる列島の地域史—方言分布論序説—」山口幸洋博士の古希をお祝いする会『方言研究の前衛』桂書房
- 「弟」
澤村美幸（2007）「方言伝播における社会的背景—「シャテー（舎弟）」を例として—」『日本語の研究』3 - 1（澤村 2011『日本語方言形成論の視点』岩波書店に再録）
- 「「スガリ」の意味」「蟻」
澤村美幸（2009）「方言形成と意味変化—「スガリ」を例として—」『東北文化研究室紀要』50（澤村 2011『日本語方言形成論の視点』岩波書店に再録）
澤村美幸（2009）「意味変化と地域差・位相差—「スガル」を例として—」『国語学研究』48（澤村 2011『日本語方言形成論の視点』岩波書店に再録）
- 「葬式」
澤村美幸（2007）「ジャンボンの謎—社会的背景と方言—」『日本語学』26 - 11
澤村美幸（2008）「〈葬式〉を表す方言分布の形成と社会的要因」『日本語の研究』4 - 4（澤村 2011『日本語方言形成論の視点』岩波書店に再録）
- 「焼畑」
澤村美幸・小林隆（2009）「方言の分布と文化的背景—『焼畑』の名称を例に—」『日本語学会 2009 年度春季大会予稿集』
- 「桑の実」
新井小枝子（2011）「〈桑の実〉を表す語彙—造語法と方言分布—」『国文学 言語と文芸』127
- 「大声で泣く様子のオノマトペ」
小林隆（2010）「オノマトペの地域差と歴史—「大声で泣く様子」について—」小林隆・篠崎晃一編『方言の発見』ひつじ書房
- 「失敗の感動詞」
澤村美幸・小林隆（2005）「『しまった！』に地域差はあるか？」『月刊言語』34 - 11
澤村美幸（2010）「感動詞の地域差と歴史—「失敗の感動詞」を例として—」小林隆・篠崎晃一編『方言の発見』ひつじ書房（澤村 2011『日本語方言形成論の視点』岩波書店に再録）

○「痛み」(感動詞)

澤村美幸 (2011)『日本語方言形成論の視点』岩波書店

○「入店のあいさつ」

小林隆 (2012)「あいさつ表現の発想—買い物言葉— (柳田国男没後 50 周年記念シンポジウム)」『日本方言研究会第 95 回研究発表会発表原稿集』

3. 新しい分野の開拓

3. 1 表現法・言語行動に関わる分野の開拓

いわゆる語彙的・文法的な項目ではなく、表現法・言語行動に関わる分野を新たに開拓し、これまで知られていなかった地域差を発見したいと考える。そのため、2009 年以降、表現法や言語行動関係の分野について、調査を進めている。

現在、次のような調査を実施済みである。

2009 年調査：感動詞〈感情系・感覚系・行為系〉を中心とした調査

2010 年調査：表現法・言語行動を中心とした調査

2011 年調査：感動詞〈談話系 - 応答詞・声かけ・談話標識〉を中心とした調査

3. 2 感動詞〈感情系・感覚系・行為系〉を中心とした調査

感動詞を次のように分類する。

- A. 感情系感動詞 (感動詞らしい感動詞)
- B. 感覚系感動詞 (生理的な音を含む)
- C. 行為系感動詞 (掛け声の類を含む)
- D. 談話系感動詞 (応答詞や声かけ・談話標識など)

このうち、A・B・Cの分野については、2009 年度に 2 冊の調査票 (第 1 調査票 59 項目、第 2 調査票 55 項目、計 114 項目。澤村美幸氏との共同研究) で調査を実施している。

【第 1 調査票】 (数字は調査票における調査項目番号)

1. 驚き、2. 失敗 (反省的)、3. 失敗 (瞬間的)、4. 狼狽、5. 落胆 (大)、6. あきれ、7. 感激、8. 悲嘆、9. 落胆 (小)、10. 期待、11. 恐怖、12. 意外 (落胆)、13. 意外 (感激)、14. 不審、15. 安堵、16. 感嘆 (自然)、17. 感嘆 (美人)、18. 賞賛、19. 満足、20. 悔しさ、21. 非難、22. 嫌悪、23. 不満、24. 恐縮、25. 憤慨、26. 困惑、27. 諦め、28. 苛立ち、29. 思い出し、30. 暑さ、31. 熱さ、32. 痛さ、33. 辛さ、34. 汚さ、35. 勢いづけ (荷物)、36. 車引き、37. 船こぎ、38. 息合わせ、39. 御輿担ぎ、40. 攻撃、41. バランスとり、42. 勢いづけ (体勢)、43. 弛緩、44. 快感、45. 満腹、46. せき、47. せきばらい、48. くしゃみ、49. しゃっくり、50. 痰吐き、51. げっぷ、52. いびき、53. あくび、54. 溺れる様子、55. 驚いた顔、56. 汚い (幼児語)、57. 糞 (幼児語)、58. 衣類 (幼児語)、59. 美しい (幼児語)

【第 2 調査票】

1. 叱る、2. 叱る (幼児)、3. 制止する、4. 制止する (幼児)、5. 褒める、6. 可愛がる、7. あやす、8. いないないばあ、9. 寝かす、10. 非難する、11. 静かにさせる、12. からかう、13. 反発する、14. 拒絶する、15. 降参する、16. 訪問する (一般)、17. 訪問に答える、

18.家の中に招く、19.訪問する（商店）、20.促す、21.引き取る、22.引き受ける、23.渡す、24.謝罪する、25.感謝する、26.感謝へ返答する、27.辞退する、28.会う、29.別れる、30.厄除けする、31.祈る、32.飛びかかる、33.万歳する、34.応援する、35.綱を引く、36.スタートを切る、37.じゃんけんをする、38.あいこのとき、39.勝負から抜ける、40.数を数える、41.豆を撒く、42.鶏を呼ぶ、43.鶏を追う、44.雀や鳩を追う、45.猫を呼ぶ、46.犬を呼ぶ、47.犬を追う、48.犬をけしかける、49.馬を呼ぶ、50.馬を追う、51.牛を呼ぶ、52.牛を追う、53.牛を進ませる、54.牛を止まらせる、55.驚いたときの言い方

3. 3 感動詞〈談話系 - 応答詞・声かけ・談話標識〉を中心とした調査

2011年に実施した調査は、上記Dの分野「談話系感動詞（応答詞や声かけ・談話標識など）」を対象とした。

この調査でも2冊の調査票を用意した。第1調査票46項目、第2調査票44項目、計90項目である。全体は次のように分類される。

- a. 応答グループ（第1調査票1～57、第2調査票31～41）
- b. 声かけグループ（第2調査票1～30）
- c. その他（第2調査票42～44）

調査項目は、主として『日本方言大辞典』における感動詞の情報を手がかりに、談話系感動詞の網羅的な把握をめざす立場から設定した。*印は、特に、方言研究ゼミナール事務局編「日本語方言立ち上げ詞の研究」調査票を参考にした項目で、慣用句的な感動詞にあたる。

場面設定は「親しい友人を相手に話すくだけた言葉遣い」を中心としたが、一部に待遇的な観点を取り入れた項目もある。

【第1調査票】

1. 「うん、そうだよ。」（肯定応答・対友人）
2. 「はい、そうです。」（肯定応答・対目上）
3. 「いや、違うよ。」（否定応答・対友人）
4. 「いえ、違います。」（否定応答・対目上）
5. 「よし、わかった。」（承諾・対友人）
6. 「はい、わかりました。」（承諾・対目上）
7. 「いや、だめだ。」（拒否・対友人）
8. 「いえ、できません。」（拒否・対目上）
9. * 「よっしゃ、わかった。」（決意的承諾）
10. * 「ほいきた。おやすいご用だ。」（歓迎的承諾）
11. 「うーんもう、わかったわかった。」（降参的承諾）
12. 「そうこなくっちゃ。」（期待的承諾）
13. 「いやだ、誰にもやるもんか。」（強い拒否）
14. 「うん、そうだな。」（同意）
15. 「いや、降らないだろう。」（弱い不同意）

16. 「いや、降るはずないよ。」(強い不同意)
17. 「いやあー、降らないんじゃないかなあ。」(迷いの不同意)
18. 「うーん、降るかなあ。」(疑い)
19. 「うーん、どうしようかな。」(迷い)
20. 「とんでもない、おれじゃないよ。」(反発的否定)
21. 「おう、おれがやったんだよ。」(開き直りの肯定)
22. 「いやいや、そんなはずはないよ。」(熟慮的否定)
23. * 「いやいや、とんでもない。」(恐縮的否定)
24. 「なんのこれしき。」(忍耐的否定)
25. * 「なーに、たいしたことないさ。」(放任的否定)
26. 「うん、いいよ。」(許可)
27. 「いや、だめだ。」(不許可)
28. * 「そうは間屋がおろさんぞ。」(強い不許可)
29. 「なにを一、このやろう。」「なめんなよ、この一。」(憤慨的反発)
30. 「なんだよ、文句あつか。」(威圧的反発)
31. 「何言ってやがる。」「ばか言ってんじゃないよ。」(憤慨的非難)
32. 「よく言うよ。」(あきれ)
33. 「よくもそんなことが言えるな。」(あきれる反発)
34. 「またそんなことを言う。」「ほんとにもう。」(あきれる抗議)
35. 「いやはや、参ったな。」(あきれる降参)
36. 「うーん、もういいよ。」(困惑的あきらめ)
37. * 「へん、勝手にしやがれ。」(憤慨的放任)
38. * 「冗談じゃないよ。」(憤慨的突き離し)
39. 「うーんと、どうだったかなあ。」「えーと、なんだっけなあ。」(記憶検索)
40. 「さて、どーしたもんかなあ。」(思案)
41. 「まあ、行ってみたらどうだ。」(曖昧判断)
42. 「ほう、そうか。」(単純納得)
43. 「ふーん、そうか。」(感心納得)
44. 「へー、そうか。」(予想外納得)
45. 「は一、なるほどなあ。」(深い感心納得)
46. 「そうか、そうだったのか。」(得心納得)

【第2調査票】

1. 「おい、落としたりよ。」(声かけ〈注意喚起・対友人〉)
2. 「おい、落としたりぞ。」(声かけ〈注意喚起・対妻〉)
3. 「ねえ、落としたりわよ。」(声かけ〈注意喚起・対夫〉)
4. 「もしもし、落としましたよ。」(声かけ〈注意喚起・対目上〉)
5. 「もしもし、落としましたよ。」(声かけ〈注意喚起・対見知らぬ人〉)
6. 「おい、ちょっと来てくれ。」(声かけ〈呼び寄せ・近距離〉)
7. 「〇〇」(応答〈近距離〉)

8. 「おい、ちょっと来てくれー。」(声かけ〈呼び寄せ・遠距離〉)
9. 「〇〇」(応答〈遠距離〉)
10. 「おい、ちょっと待ってくれ。」(声かけ〈呼び止め・近距離〉)
11. 「おい、待って来てくれー。」(声かけ〈呼び止め・遠距離〉)
12. 「おい、やめろよ。」(声かけ〈制止〉)
13. 「これこれ、やめなさい。」(声かけ〈制止・対目下〉)
14. 「あの一」(遠慮的声かけ)
15. 「そうそう、そういえば」(思い出しの声かけ)
16. 「さあ、帰ろう。」(促し)
17. 「さあさあ、帰ろう帰ろう。」(強い促し)
18. 「さて、始めようか。」「どれ、始めるか。」(開始)
19. 「なあ、頼むよ。」(懇願)
20. 「なあ、そうだろ。」(同意要求)
21. 「なっ、そうだろ。」(念押し的同意要求)
22. 「なっ。」(念押し)
23. 「どれ、見せてみろ。」(引き取り)
24. 「ほら、あいつだよ。」(記憶喚起)
25. 「そら、見てみろ。」「ほら、言わんこっちゃない。」(的中非難)
26. 「では、また。」(切り上げ)
27. 「そんなら、よろしく。」(切り上げ〈依頼〉)
28. 「もしもし」(「もしもし、佐藤さんですか。鈴木ですが。」)(声かけ〈電話〉)
29. 「はい、佐藤です。」(応答〈電話〉)
30. 「〇〇」(切り上げ〈電話〉)
31. 「そうそう、そのことそのこと。」(的中表明)
32. 「そう、そのとおりだ。」「まったくだよ。」(感激同意)
33. 「当たり前だ!」「知れたことよ!」(当然同意)
34. 「うん」(単純情報受容表示)
35. 「そう」「そうそう」(同意的信息受容表示)
36. 「ほんと?」(確認)
37. 「えっ、何て言った?」「えっ、何だって?」(聞き返し)
38. 「えっ、どうして?」(呆然的聞き返し)
39. 「えっ、そんなあ。」(落胆的反発)
40. 「おっ、やったあ。」(感激的受容)
41. 「ほう、それでそれで。」(話の催促)
42. 「いや」(言い直し)
43. 「あれ、なんだっけ」(失念)
44. 「えーと、あの一」(言葉検索)

3. 4 表現法・言語行動を中心とした調査

表現意図を軸にしたさまざまな場面についての調査項目や、話術(言語的技法)のバラ

エティに関する調査項目などからなる（調査項目の構築は岸江信介氏、西尾純二氏と共同で行った）。

【第1調査票】

1. 受託／拒否：役員を頼む
 - 1.1.受託の表現形式
 - 1.2.受託時における謙遜表明の必要性<追加>
 - 1.3.受託の明言の必要性（⇔謙遜表現のみ）
 - 1.4.拒否の表現形式
 - 1.5.拒否時における理由説明の必要性<追加>
 - 1.6.拒否の明言の必要性（⇔理由表現のみ）
2. 依頼／受託／拒否／感謝：お金を借りる
 - 2.1.依頼の表現形式
 - 2.2.理由説明の必要性
 - 2.3.恐縮表明の必要性
 - 2.4.効果補強の必要性
 - 2.5.感謝の表現形式
 - 2.6.拒否への応答の表現形式
 - 2.7.受託の表現形式
 - 2.8.感謝への応答の表現形式
 - 2.9.拒否の表現形式
3. 命令：静かにさせる
4. 勧め／受託／辞退：食事を勧める
 - 4.1.勧めの表現形式
 - 4.2.受託の表現形式
 - 4.3.辞退の表現形式
5. 謝罪：粗相をわびる
 - 5.1.謝罪の表現形式
 - 5.2.謝罪への応答の表現形式
6. 依頼：道を尋ねる（中学生の男の子）
 - 6.1.依頼行動の有無
 - 6.2.依頼の表現形式
 - 6.3.依頼の際の気遣い
7. 依頼：道を尋ねる（急ぎ足のサラリーマン）
 - 7.1.依頼行動の有無
 - 7.2.依頼の表現形式
 - 7.3.依頼の際の気遣い
8. 要求：値切る
 - 8.1.要求（値切り）行動の有無
 - 8.2.要求（値切り）の表現形式

- 8.3.要求（値切り）の日常化
- 9. 拒否：新聞購読を断る（見知らぬ販売員）
 - 9.1.拒否行動の有無
 - 9.2.拒否の表現形式
 - 9.3.拒否の際の気遣い
- 10. 拒否：新聞購読を断る（親しい友人）
 - 10.1.拒否行動の有無
 - 10.2.拒否の表現形式
 - 10.3.拒否の際の気遣い
- 11. 感謝：落とし物を届けてもらう
 - 11.1.感謝の表現形式（その場）
 - 11.2.感謝行動の有無・種類（後日）
 - 11.3.感謝の表現形式（後日）
 - 11.4.感謝行動の内容（後日）
- 12. 感謝：醤油さしを取ってもらう
 - 12.1.配偶者への感謝
 - 12.2.息子への感謝
 - 12.3.娘への感謝
 - 12.4.息子の嫁への感謝
 - 12.5.娘の婿への感謝

【第2調査票】

- 1. 話のつなぎ（会話の場への配慮）
- 2. 盛り上げ（会話の場への配慮）
- 3. ボケ（会話の場への配慮）
- 4. ツッコミ（会話の場への配慮）
- 5. 自分の失敗談（会話の場への配慮）
- 6. 水向け（会話の場への配慮）
- 7. うなずき・あいづちなど（会話の場への配慮）
- 8. 譲歩（会話の場への配慮）
- 9. 予防線
- 10. 冗談めかした非難
 - 11. 気まずさの解消＜謝罪・開き直り・言い逃れ・冗談・ボケ・知らない振りなど＞
 - 12. 気まずさの解消＜指摘・ツッコミ・庇う・冗談・ボケ・知らない振りなど＞
 - 13. 言い訳＜謝罪・質問・理由説明・うそ・冗談など＞
 - 14. 意識的な褒め
 - 15. 深刻な事態への対応＜感謝・感情吐露・冗談＞
 - 16. 婉曲的な依頼
 - 17. 間接的な注意
 - 18. あいまいな返事

19. お世辞
20. 不快な事態への対応<我慢・催促・うそ・婉曲的な催促・いやみなど>
21. 好意の受託<率直発言・恐縮・感謝・遠慮・辞退など>
22. 祝儀の事情尋ね（私事への立ち入り）
23. 行く先尋ね（私事への立ち入り）
24. 行く先尋ねへの回答（私事への立ち入りへの対応）
25. 不本意な結果への対応<指摘・発見・予想外・なぐさめ・励まし・比較など>
26. 不本意な結果への対応<指摘・発見・予想外・落胆・負け惜しみ・比較など>
27. 店員との会話<会話回避・お世辞・冗談・うそ・正直発言・会話への付き合いなど>
28. しつけ<諭し・自覚強要・周囲への配慮・脅し・期待持たせ・叱り・体罰など>
29. 体面繕い<小声・身体言語・実力行使など>
30. 見知らぬ人への声掛け<質問・挨拶・不接触など>
31. 赤ちゃんへの声掛け<直接・間接・身体接触・不接触など>
32. 質問の前置き
33. お祝いへの返答<感謝・苦労話・謙遜など>
34. 謝意の方法<電話・メール・手紙・品物など>

4. おわりに

今回の報告は調査内容の紹介、および経過報告が中心となり、特に、後半の新しい分野の取り組みについては解説が不十分であった。いずれ機会を得て詳しく説明したい。

今後の調査としては、表現意図を軸にしたさまざまな場面についての調査や、話術（言語的技法）のバラエティに関する調査を充実させる必要があると思っている。今のところ、一部の項目しか取り上げていないオノマトペについての全国調査も、近いうちに企画したいと考えている。

文 献

- 小林隆（1988）「通信調査法の再評価」国立国語研究所『方言研究法の探索』秀英出版
- 小林隆（2002）「方言学のパースペクティブ」日本方言研究会編『21世紀の方言学』国書刊行会
- 小林隆（2004）『方言学的日本語史の方法』ひつじ書房
- 小林隆・篠崎晃一（2004）『消滅の危機に瀕する全国方言語彙資料』科学研究費報告書
- 小林隆（2005）「第二の『日本言語地図』をめざして」『国文学』50・5
- 小林隆・白沢宏枝（2002）「方言地図項目一覧－主要語彙項目－」馬瀬良雄監修『方言地理学の課題』明治書院
- 佐藤喜代治編（1983）『語彙研究文献語別目録』明治書院
- 柳田征司（1991）『室町時代語資料による基本語詞の研究』武蔵野書院